

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲	第	号
------	-----	---	---

氏 名 Esayas Haregot Hilawe

論 文 題 目

Differences by sex in the prevalence of diabetes mellitus, impaired fasting glycaemia and impaired glucose tolerance in sub-Saharan Africa: a systematic review and meta-analysis

(サブサハラ・アフリカにおける 糖尿病・空腹時血糖異常・耐糖能異常の有病率の男女差：システマティックレビューおよびメタアナリシス)

論文審査担当者 名古屋大学教授

主 査 委 員 若 井 建 志 


名古屋大学教授

委 員 カ 口 藤 昌 志 

名古屋大学教授

委 員 濱 嶋 信 之 

名古屋大学教授

指 導 教 授 青 山 温 子 

論文審査の結果の要旨

サブサハラアフリカ諸国においても、生活習慣等の変化に伴い、糖尿病をはじめとする生活習慣病が重要課題となっている。糖尿病の危険因子となる生活習慣は男女で相違しているが、糖尿病・空腹時血糖異常・耐糖能異常の有病率の男女差に関するサブサハラアフリカ諸国での研究結果は一定していない。

本研究の目的は、サブサハラアフリカ諸国における糖尿病・空腹時血糖異常・耐糖能異常の有病率の男女差を、メタアナリシスにより明らかにすることである。2011年9月までの、PubMed、Web of Science等のデータベースから、サブサハラアフリカ、生活習慣病、危険因子に関するキーワードで検索して得られた5129論文より、一般人口対象の横断研究で男女別有病率が示されている等の条件により25論文を抽出し、他の方法で得られた4論文とあわせ、29論文(36データセット)について、メタアナリシスを行った。ランダム効果モデルを用いて解析し、以下のような結果が得られた。

1. 東部・中央部・南部アフリカでは、糖尿病の有病率に男女差はなかった。
2. 空腹時血糖異常の有病率は、男性の方が高かった。
3. 耐糖能異常の有病率は、女性の方が高かった。
4. 糖尿病有病率を地域別に解析すると、東部・中央部アフリカでは男性の方が高く、南部アフリカでは女性の方が高かった。
5. 糖尿病有病率を国の所得水準別に解析すると、低所得国では男性の方が高かった。





空腹時血糖異常の有病率が男性の方が高いのは、肝のインスリン感受性や喫煙が関与していると考えられる。耐糖能異常の有病率が女性の方が高いのは、体格、筋肉量、女性ホルモンのインスリン感受性への影響等が関与していると考えられる。地域差は、内臓脂肪型肥満の頻度や、他の生活習慣との関連も考えられる。

本研究により、東部・中央部・南部アフリカにおける、空腹時血糖異常・耐糖能異常の有病率の男女差が初めて明らかになった。本研究は、今後、サブサハラアフリカ諸国において生活習慣病の疫学調査や予防対策を進めるにあたり、男女差を考慮する必要があるという、重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士(医学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙 2

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	Esayas Haregot Hilawe
試験担当者	主査 若井建志  加藤昌  濱嶋信  指導教授 青山渥子 			
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 開発途上国における生活習慣病の状況について2. メタアナリシスの方法と意義について3. 国際保健医療学・公衆衛生学における本研究の意義付けについて <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、国際保健医療学・公衆衛生学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				